

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 猪苗代町立猪苗代中学校 】

1 実践テーマ	I · II · III · IV · V
2 実施対象者 (学年・人数)	猪苗代中 全学年生徒 9クラス 229名 ・教職員 27名 東中 全学年生徒 4クラス 70名 ・教職員 10名 吾妻中 全学年生徒 3クラス 20名 ・教職員 5名 町教育委員会 4名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (特別活動) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピックの佐藤敦之選手の話から、不撓不屈の精神を学ぶとともに、夢を持つこと、感謝の気持ちをもつこと、人との出会いを大切にすることを学ぶ。
5 取組内容	○ 事前学習 オリンピックの歴史について学ぶとともに、佐藤敦之選手の経歴について触れる。 ○ チラシ及びポスターによる案内  <p>オリンピック・パラリンピック教育推進事業 佐藤敦之選手とのパネルディスカッション</p> <p>1 日 時 令和元年 9月17日 (火) ・ 9:40~11:30</p> <p>2 会 場 猪苗代中学校 体育館</p> <p>3 ゲスト 佐 藤 敦 之 氏 ・ 北京オリンピック男子マラソン日本代表・ 2009世界陸上ベルリン大会6位入賞</p> <p>4 テーマ 「わたしにとってオリンピックとは〇〇である」</p>  <p>夢をもつこと 感謝の気持ちをもつこと あきらめないこと 人間は弱いこと 出会いを大切にすること みんなで 考えよう</p> ○ パネルディスカッション I 導 入 ・ 佐藤敦之選手の生い立ちを紹介 II 展 開 ・ 中学、高校、大学時代の栄光と挫折を振り返る。 ・ 北京オリンピック（最下位）と世界選手権6位入賞（日本

- 人最高位)
- ・レース後の一礼について
- Ⅲまとめ・パネラーの感想
- ・佐藤選手からのメッセージ
 - ・生徒発表



佐藤敦之選手



生徒からの質問



パネルディスカッションの様子

<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挫折や失敗を恐れ、行動できずに消極的になっていた生徒がチャレンジする前向きな気持ちになった。 ○ 夢に向かって、諦めずに挑戦し続けることの大切さを肌で感じた。
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>会津出身のオリンピックであるが、栄光に至るまでは苦悩と挫折の連続であり、そこから這い上がる姿が、困難に負けない勇気につながると思った。(北京オリンピックマラソン競技最下位を例に) また、故郷をこよなく愛する姿勢、礼儀正しく、ひたすらに努力を重ねる姿は、是非中学生に見習ってほしいところ。</p> <p>講演者の選定について工夫した点は、佐藤敦之選手が大会に向けた練習時期や合宿等で、スケジュールも非常に厳しい状況だったため、当初講演は見送られた。</p> <p>そこで、講演会をパネルディスカッション形式とし、佐藤選手に大きな負担がかからないように配慮して交渉を進めたところ承諾していただくことができた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講演者の選定、依頼、渉外等早めの準備。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>困難に負けず、未来を切り開いていく姿は、まさに野口英世博士の遺訓でもある「目的・正直・忍耐」に通じる。生徒たちの思いが良き校風を醸成し、令和4年度から町内3中学校を統合した新生猪苗代中学校につなげたい。</p>

